

ヤエヤマノイバラ由来乳酸菌



ヤエヤマノイバラ（カカヤンバラ）由来乳酸菌を
レンタル・販売いたします。

- ヤエヤマノイバラ（カカヤンバラ）は日本では先島諸島の一部にしか分布しない、大輪で一重の純白の花を咲かせる野生のバラです。
- イメージのよいバラの花・果実から単離した乳酸菌株を、レンタル・販売いたします。
- 培養物・抽出物の作製や、各種機能性試験・成分分析なども承ります。



Lactococcus lactis

subsp. *lactis*

2株

花由来1株、果実由来1株



Lactococcus lactis

subsp. *hordniae*

1株

果実由来1株



Leuconostoc

pseudomesenteroides

2株

花由来1株、果実由来1株

Weissella cibaria

1株

花由来1株



Enterococcus faecalis

1株

果実由来1株



オーピーバイオフィクトリー株式会社



〒904-2234 沖縄県うるま市字州崎5番8 TEL : 098-989-8744 PHS : 070-5497-0394 FAX : 098-989-8745

URL : <http://www.opbio.com/> 担当 : 秋山清隆 e-mail : kiyotaka.akiyama@opbio.com



ヤエヤマノイバラ

大名たちを魅了した、八重山の初夏を彩る大輪の白い花

● ヤエヤマノイバラ（カカヤンバラ）は日本では先島諸島の一部（宮古島・伊良部島・石垣島・西表島）にしか分布しない、大輪の一重の白い花を咲かせる野生のバラです。

● 海岸近くに生える植物で、石垣島では最北端の平久保崎やその周辺の放牧場に自生しています。緑の牧草地にほのかに香る清楚な白い花が点々と咲く美しい風景は、平久保崎の初夏の風物詩となっています。

● カカヤンバラという別名は、フィリピンのルソン島北部のカガヤン地方に由来します。文政11年（1828年）、カガヤン地方に漂着した八丈島の船頭儀平が、帰国時に種子を持ち帰りました。天保元年（1830年）、儀平は幕臣の佐橋節翁の屋敷に招かれ、この種子を進呈します。そのときに同席していた、本草学者でもある旗本の馬場克昌が、天保2年（1831年）に発芽に成功します。天保4年（1833年）には麻布にあった馬場の屋敷で開花し、カカヤンバラと名付けられました。

● 当時はオランダ船・薩摩・琉球などから次々と珍しい植物が持ち込まれ、本草学が流行していました。馬場は本草愛好家の大名・旗本の集まりである赭鞭会の有力会員の一人であり、3,000坪あった馬場の屋敷には、珍しい草木が植えられていたといえます。この花の上品な美しさは、漂流からの帰還者がもたらした異国の話とともに、大名たちを魅了したものだと思われる。

● 今日ではこのバラを庭園で見かけることは稀ですが、本種を原種として作出された「マーメイド」などのハイブリッド・ブラクテアータ系のバラの品種に、その美しい面影を見ることができます。

● 海を越え、また時代を越えて人々を魅了するこのバラから単離された乳酸菌を、ぜひ貴社の製品開発にご利用ください。

参考文献

- (1) 磯野直秀 (2007) 明治前園芸植物渡来年表 慶應義塾大学日吉紀要, 自然科学 42 pp.27-58
- (2) 飯沼慾齋著・北村四郎解説 (1977) 『草木図説』 (木部) 保育社

オーピーバイオファクトリー株式会社



〒904-2234 沖縄県うるま市字州崎5番8 TEL : 098-989-8744 FAX : 098-989-8745
URL : <http://www.opbio.com/> 担当 : 秋山清隆 e-mail : kiyotaka.akiyama@opbio.com